

電気・精密機器

1. 評価対象企業（22 社）

【産業・民生エレクトロニクス部門（7 社）】

日立製作所、三菱電機、オムロン、日本電気、富士通、パナソニック、ソニー

【電子部品部門（6 社）】 日本電産、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門（9 社）】 富士フイルムホールディングス、コニカミノルタ、セイコーエプソン、ニコン、オリンパス、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	31
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	2	14
計		20	100

（注）評価項目の内容および配点は 62 頁参照

（2） 評価実施アナリストは 60 名（31 社）である。（63 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（58～61 頁）参照）

- ① 本年度は、経営陣の IR 姿勢等、フェア・ディスクロージャー、自主的信息開示において、項目の新設、削除、内容変更、配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は 72.2 点（昨年度 74.2 点）、総合評価点の標準偏差は 6.7 点（昨年度 6.4 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、電子部品部門（6 社）が 74.2 点（昨年度 73.3 点）、産業・民生エレクトロニクス部門（7 社）が 72.4 点（昨年度 74.5 点）、精密機器部門（9 社）が 70.8 点（昨年度 74.6 点）となった。電子部品部門は昨年度とほぼ同水準となったが、産業・民生エレクトロニクス部門と精密機器部門の 2 部門は昨年度を下回り、特に精密機器部門の昨年度比（－3.8 点）は産業・民生エレクトロニクス部門の昨年度比（－2.1 点）を上回った。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 73%（昨年度 76%）、説明会等が 73%（昨年度 76%）、フェア・ディスクロージャーが 80%（昨年度 78%）、コーポレート・ガバナンス関連が 69%（昨年度 68%）、自主的信息開示が 65%（昨年度 66%）となり、自主的信息開示とコーポレート・ガバナンス関連の 2 分野が 60%台に留まり、昨年度同様、他の 3 分野に比べ若干低水準となった。

④ 評価項目について見ると、全 20 項目のうち次の 5 項目が 80%以上の平均得点率となった。

- (a) 「決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値（設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、為替感応度、国内外従業員数の実績等）が、適切に記載されていますか」（平均得点率 91%）（得点率：100%14 社）
- (b) 「説明会およびテレフォンカンファレンスの英語対応（和英同時通訳、英語による開催あるいは事後の英語によるスクリプトの提供）が実施されていますか」（平均得点率 85%）（得点率：100%16 社）
- (c) 「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率 82%）（得点率：90%台 3 社・80%台 14 社）
- (d) 「社長または会長が、会社主催の説明会（テレフォンカンファレンスを含む）に必要な応じ適宜出席していますか」（平均得点率 81%）（得点率：90%台 4 社・80%台 11 社）
- (e) 「主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていますか」（平均得点率 80%）（得点率：90%台 2 社・80%台 10 社）

⑤ 一方、次の 2 項目はともに、全評価項目中最低の平均得点率となった。

- (f) 「工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率 63%）（得点率：20%台 1 社・30%台 1 社・40%台 2 社・50%台 3 社）
- (g) 「決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか」（平均得点率 63%）（得点率：40%台 2 社・50%台 7 社）

⑥ なお、本年度に新設した下記 2 項目については、次のとおりとなった。

- (h) 「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」（平均得点率 79%）（得点率：60%台 2 社・70%台 9 社・80%台 11 社）
- (i) 「統合報告書を開示していますか。その内容は、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていますか」（平均得点率 67%）（得点率：50%台 4 社・60%台 12 社・70%台 3 社・80%台 2 社・90%台 1 社）

(2) 全体の上位 5 企業の評価概要

第 1 位 オムロン（ディスクロージャー優良企業〔5 回目〕総合評価点 86.5 点〔昨年度比+4.0 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（得点率（以下省略）97%）、コーポレート・ガバナンス関連（91%）、自主的情報開示（91%）が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（83%）、説明会等が第 2 位（83%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、代表取締役社長 CEO が会社主催の説明会において、経営戦略等を十分に説明していることが評価された。また、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 4 位となった。さらに、経営分析に必要なかつ重要な情報開示の継続性に配慮がされていることも評価（満点）された。
- ③ 説明会等においては、決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分であることが評価された。また、プレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていることも評価された。さらに、主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明され、売上高および営業利益の補足情報が四半期ベースで開示されていることも評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢を始め、ホーム・ページにおける情報提供、外国人投資家向け情報提供など、この分野全体について極めて高く評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていることが極めて高い評価となった。また、新中期経営計画（VG2.0）で掲げた ROIC 等の経営指標について進捗状況を説明していることに加え、達成のための具体的方策が十分に説明されている

ことも極めて高く評価された。さらに、資本政策、株主還元策が十分に説明されていることも極めて高く評価され、この分野において第2位以下に大差をつけた。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、ESG 説明会、事業説明会が開催され、有益であったことが評価された。また、「統合報告書を開示していますか。その内容は、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていますか」については第1位となり、この分野においても第2位以下に大差をつけた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 日本電産（総合評価点 82.6 点〔昨年度比－4.4 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（89%）、**説明会等**（85%）が第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**が第3位（80%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第4位（90%）、**自主的情報開示**が同得点第15位（61%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、代表取締役会長が四半期毎の説明会において、経営方針・中期計画等を十分に説明していることが極めて高く評価された。また、**IR 部門**に十分な情報が集積され、子会社の業績動向など、アナリストの関心事項に答えることにより、アナリストと有益なディスカッションができることも高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第4位となった。加えて、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がされていることも極めて高く評価された。
- ③ **説明会等**においては、決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分で、今後の方向性を具体的に十分説明していることが評価された。また、プレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていることも高い評価となった。さらに、主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明され、売上高および営業利益の補足情報が四半期ベースで開示されていることも高く評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢を始め、ホーム・ページにおける情報提供、外国人投資家向け情報提供など、この分野全体について高く評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、中期戦略目標（Vision 2020）が明確で、具体的方策が十分に説明されていることが評価された。また、資本政策、株主還元策の説明についても評価された。
- ⑥ なお、**自主的情報開示**の「統合報告書を開示していますか。その内容は、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていますか」については第20位に留まった。

同得点第3位 ソニー（総合評価点 79.9 点〔昨年度比＋0.4 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第2位（96%）、**説明会等**が第3位（82%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第4位（80%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第5位（75%）、**自主的情報開示**が同得点第7位（69%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、専務取締役 CFO が業績説明会において、経営方針・中期計画等を十分に説明していることが評価された。また、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第1位となった。さらに、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がされていることも評価された。
- ③ **説明会等**においては、プレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていることも評価された。また、主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明され、売上高および営業利益の補足情報が四半期ベースで開示されていることも極めて高い評価となった。なお、ゲーム事業における有料会員数、音楽事業での売上内訳などポイントを押さえた開示を評価する声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢を始め、説明会のライブ配信、説明会で放映したスライドの掲載など、ホーム・ページにおける情報提供、外国人投資家向け情報提供など、この分野全体について極めて高く評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、第三次中期経営計画を策定し、ROE など目標とする数値指標を

公表し、達成のための主たる取組が具体的に説明されていることが評価された。なお、配当性向など財務方針が不明瞭との声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「IR Day」、工場見学が有益であったことが評価された。なお、「統合報告書を開示していますか。その内容は、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていますか」については第 19 位に留まった。

同得点第 3 位 東京エレクトロン（総合評価点 79.9 点〔昨年度比－2.4 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 2 位（82%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（81%）、**自主的情報開示**が第 5 位（73%）、**説明会等**が第 7 位（79%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 8 位（88%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、代表取締役会長および代表取締役社長 CEO が決算説明会において、経営方針・中期計画等を十分に説明していることが評価された。なお、受注の開示を止めたことは、ディスクロージャーの後退、トレンドが見えにくくなった、開示内容変更により、情報の継続性が取れなくなったとの声や、会社全体でも良いので受注の情報を望む声があり、「フェア・ディスクロージャー・ルール」の導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 18 位に留まった。
- ③ **説明会等**においては、プレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていることが評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢を始め、説明会のリプレイ、音声配信など、ホームページにおける情報提供、外国人投資家向け情報提供など、この分野全体について評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、中期経営計画で掲げた ROE 等の経営指標について、進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていることが高く評価された。また、資本政策、株主還元策が十分に説明されていることも評価された。なお、CFO 辞任にかかる説明が不十分との声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、工場見学会、中期経営計画説明会が開催され、有益であったことが評価された。「統合報告書を開示していますか。その内容は、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていますか」については第 7 位となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ ローム（総合評価点 72.3 点〔昨年度比＋2.4 点〕、第 10 位〔昨年度第 16 位〕）

同社は、**説明会等**が同得点第 5 位（79%）、**経営陣の IR 姿勢等**（74%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（69%）が同得点第 9 位などとなった。同社は、昨年度において 4 つの評価分野の得点率が一昨年度を上回り、また、本年度においても 3 つの評価分野の得点率が昨年度を上回ったことなどにより、一昨年度以降 2 年度通算すると、総合評価点が 63.2 点から 72.3 点へ（＋9.1 点）、順位が第 22 位から第 10 位へ（12 ランクアップ）改善した。

○ 京セラ（総合評価点 70.6 点〔昨年度比＋5.9 点〕、第 13 位〔昨年度第 19 位〕）

同社は、全ての分野において昨年度の得点率を上回り、**説明会等**が第 9 位（76%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 10 位（84%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 13 位（71%）などとなった。特に、**説明会等**で昨年度比、得点率で 9 ポイント、評価点で 2.7 点上昇したことなどにより、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅、順位の上昇幅ともに同点第 1 位）につながった。

○ 日東電工（総合評価点 69.8 点〔昨年度比＋5.9 点〕、第 15 位〔昨年度第 20 位〕）

同社は、全ての分野において昨年度の得点率を上回り、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 11 位（73%）、**自主的情報開示**が第 12 位（64%）、**説明会等**が第 15 位（70%）などとなった。特に、**自主的情報開示**において昨年度比、得点率で 7 ポイント、評価点で 3.9 点、**説明会等**において得点率で 4 ポイント、評価点で 1.2 点改善したことなどにより、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅で同点第 1 位、順位の上昇で第 4 位）につながった。

(参考) 部門別の第1位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

オムロン (総合評価点 86.5 点、当部門 6 回連続第 1 位、全体第 1 位)

【電子部品部門】

日本電産 (総合評価点 82.6 点、当部門 14 回連続第 1 位、全体第 2 位)

【精密機器部門】

東京エレクトロン (総合評価点 79.9 点、当部門 2 回連続 6 回第 1 位、全体同得点第 3 位)

以 上

2018年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャ-		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6645 オムロン	86.5	25.7	2	26.5	2	9.7	1	11.8	1	12.8	1	2
2	6594 日本電産	82.6	27.5	1	27.2	1	9.0	4	10.4	3	8.5	15	1
3	6758 ソニー	79.9	24.8	4	26.2	3	9.6	2	9.7	5	9.6	7	4
3	8035 東京エレクトロン	79.9	25.0	3	25.3	7	8.8	8	10.6	2	10.2	5	3
5	6762 TDK	78.6	23.9	5	25.8	4	8.9	7	9.7	5	10.3	3	6
6	6501 日立製作所	77.0	22.6	11	24.5	8	9.0	4	9.4	7	11.5	2	7
7	4901 富士フイルムホールディングス	74.9	23.6	7	23.3	13	8.4	10	10.0	4	9.6	7	8
8	6752 パナソニック	74.5	22.9	9	24.1	10	9.1	3	9.0	9	9.4	10	14
9	7733 オリオンバス	73.5	21.9	14	24.0	11	9.0	4	9.0	9	9.6	7	未実施
10	6963 ローム	72.3	22.9	9	25.4	5	6.3	20	9.0	9	8.7	14	16
11	6981 村田製作所	71.2	21.4	16	25.4	5	8.2	12	7.8	20	8.4	17	10
12	4902 コニカミノルタ	71.1	21.4	16	21.5	18	8.5	9	9.4	7	10.3	3	9
13	6971 京セラ	70.6	22.1	13	24.2	9	8.4	10	8.1	17	7.8	20	19
14	7731 ニコン	70.3	23.4	8	23.6	12	5.9	21	8.5	13	8.9	13	12
15	6988 日東電工	69.8	22.6	11	22.3	15	7.1	18	8.8	12	9.0	12	20
16	6724 セイコーエプソン	68.1	21.0	18	21.7	17	7.8	16	8.5	13	9.1	11	5
17	6702 富士通	67.3	20.5	19	20.7	19	8.2	12	7.9	19	10.0	6	11
18	7741 HOYA	67.2	23.9	5	22.0	16	7.2	17	8.3	16	5.8	22	17
19	7752 リコー	66.6	21.6	15	20.7	19	8.1	14	8.1	17	8.1	19	18
20	7751 キヤノン	65.3	20.2	20	22.9	14	7.0	19	8.4	15	6.8	21	15
21	6701 日本電気	63.6	20.1	21	19.8	21	7.9	15	7.3	22	8.5	15	13
22	6503 三菱電機	58.0	19.4	22	18.9	22	3.9	22	7.5	21	8.3	18	21
	評価対象企業評価平均点	72.23	22.66		23.47		8.00		8.96		9.14		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.7点(昨年度6.4点)であった。

2018年度 ディスクロージャ－評価比較総括表 (産業・民生エレクトロニクス部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスタ ンクロージャ－	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目5 (配点 31点)	評価項目7 (配点 32点)	評価項目3 (配点 10点)	評価項目3 (配点 13点)	評価項目2 (配点 14点)	
			評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	
1	6645 オムロン	86.5	25.7	26.5	9.7	11.8	12.8	1
2	6758 ソニー	79.9	24.8	26.2	9.6	9.7	9.6	2
3	6501 日立製作所	77.0	22.6	24.5	9.0	9.4	11.5	3
4	6752 パナソニック	74.5	22.9	24.1	9.1	9.0	9.4	6
5	6702 富士通	67.3	20.5	20.7	8.2	7.9	10.0	4
6	6701 日本電気	63.6	20.1	19.8	7.9	7.3	8.5	5
7	6503 三菱電機	58.0	19.4	18.9	3.9	7.5	8.3	7
	評価対象企業評価平均点	72.41	22.28	22.97	8.20	8.95	10.01	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は9.9点(昨年度6.2点)であった。

2018年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前 回 順 位
			評価項目5 (配点 31点)	評価項目7 (配点 32点)	評価項目3 (配点 10点)	評価項目3 (配点 13点)	評価項目2 (配点 14点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	6594 日本電産	82.6	27.5	1	9.0	1	8.5	4
2	6762 TDK	78.6	23.9	2	8.9	2	10.3	1
3	6963 ローム	72.3	22.9	3	6.3	6	8.7	3
4	6981 村田製作所	71.2	21.4	3	8.2	4	8.4	5
5	6971 京セラ	70.6	22.1	5	8.4	3	7.8	6
6	6988 日東電工	69.8	22.6	4	7.1	5	9.0	2
	評価対象企業評価平均点	74.20	23.40		7.99		8.97	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.2点(昨年度5.4点)であった。

2018年度 ディスクロージャ―評価比較総括表（精密機器部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目5 (配点 31点)		評価項目7 (配点 32点)		評価項目3 (配点 10点)		評価項目3 (配点 13点)		評価項目2 (配点 14点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8035 東京エレクトロン	79.9	25.0	1	25.3	1	8.8	2	10.6	1	10.2	2	1
2	4901 富士フイルムホールディングス	74.9	23.6	3	23.3	4	8.4	4	10.0	2	9.6	3	3
3	7733 オリジナルパス	73.5	21.9	5	24.0	2	9.0	1	9.0	4	9.6	3	未実施
4	4902 コニカミノルタ	71.1	21.4	7	21.5	8	8.5	3	9.4	3	10.3	1	4
5	7731 ニコン	70.3	23.4	4	23.6	3	5.9	9	8.5	5	8.9	6	5
6	6724 セイコーエプソン	68.1	21.0	8	21.7	7	7.8	6	8.5	5	9.1	5	2
7	7741 HOYA	67.2	23.9	2	22.0	6	7.2	7	8.3	8	5.8	9	7
8	7752 リコー	66.6	21.6	6	20.7	9	8.1	5	8.1	9	8.1	7	8
9	7751 キヤノン	65.3	20.2	9	22.9	5	7.0	8	8.4	7	6.8	8	6
	評価対象企業評価平均点	70.78	22.45		22.78		7.86		8.98		8.71		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は4.7点(昨年度5.1点)であった。

2018年度 評価項目および配点（電気・精密機器）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (31点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 社長または会長が会社主催の説明会（ テレフォンカンファレンスを含む ）に必要な応じ適宜出席していますか。（前年7月から本年6月までの間）	4
② 社長または会長が、会社主催の説明会（ テレフォンカンファレンスを含む ）において、経営方針・中期計画等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。	10
(3) IRの基本スタンス	
① フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	4
② 経営分析に必要なかつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (32点)
(1) 説明会における開示	
① 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものです。	5
② 決算説明会において、今後の方向性（ 翌四半期の見通し等 ）を具体的に十分説明していますか。	5
(2) 説明会資料等における開示	
① 決算説明会におけるプレゼンテーション資料は、充実しておりかつ簡潔に要約されていますか。	5
② 決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値（ 設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、為替感応度、国内外従業員数の実績等 ）が、適切に記載されていますか。	4
③ 主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていますか。	4
(3) インタビュー等における開示	
① 主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
② 売上高および営業利益の補足情報が、四半期ベースで開示されていますか。	4
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・ 経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページで財務データ・説明会のリプレイや質疑応答の内容等有用な情報を活用しやすい形式で提供していますか。	4
(3) 外国人投資家向け情報提供	
・ 説明会およびテレフォンカンファレンスの英語対応（ 和英同時通訳、英語による開催あるいは事後の英語によるスクリプトの提供 ）が実施されていますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (13点)
(1) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。	3
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画（ ROEなど目標とする経営指標 ）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (14点)
① 統合報告書を開示していますか。その内容は、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていますか。	8
② 工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間）	6

電気・精密機器専門部会委員

部 会 長	嶋田 幸彦	三井住友アセットマネジメント
部会長代理	浦 昌平	アムンディ・シージャパン
	江澤 厚太	シティグループ証券
	桂 竜輔	SMBC 日興証券
	佐渡 拓実	大和証券
	福永 敬輔	三井住友信託銀行
	和田木 哲哉	野村證券

評価実施アナリスト（60名）

相場 繁	野村アセットマネジメント	芝野 正紘	シティグループ証券
赤羽 高	東海東京調査センター	嶋田 幸彦	三井住友アセットマネジメント
秋澤 宏典	東京海上アセットマネジメント	菅原 繁男	損保シージャパン日本興亜アセットマネジメント
有沢 正一	岩井コスモ証券	高橋 豊	極東証券経済研究所
石井 大樹	第一生命保険	田中 健士	みずほ証券
石井 宏	三菱 UFJ 国際投信	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
和泉 美治	SBI 証券	谷林 正行	QUICK
伊藤 健悟	QUICK	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
稲垣 善之	野村アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
今津 拓洋	アセットマネジメント One	豊田 博幸	QUICK
内野 晃彦	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	中根 康夫	みずほ証券
浦 昌平	アムンディ・シージャパン	萩原 幸一朗	東海東京調査センター
江澤 厚太	シティグループ証券	引地 真二	アセットマネジメント One
大野 健太	明治安田生命保険	平田 真悟	UBS 証券
大野 高	三菱 UFJ 信託銀行	福永 敬輔	三井住友信託銀行
岡崎 優	野村證券	堀 雄介	みずほ証券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	前川 悠仁	野村證券
小野 雅弘	モルガン・スタンレー MUFG 証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
片山 智宏	三井住友信託銀行	松村 泰武	大和住銀投信投資顧問
桂 竜輔	SMBC 日興証券	水野 晃	UBS 証券
木村 光宏	野村アセットマネジメント	光田 寛和	東京海上アセットマネジメント
久保田 悟	三井住友信託銀行	宮本 剛	UBS 証券
熊崎 崇文	三菱 UFJ 信託銀行	宮本 武郎	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
小池 幸弘	UBS 証券	安岡 智史	三井住友信託銀行
小林 守伸	ニッセイ アセット マネジメント	安田 秀樹	エース経済研究所
小山 誠	富国生命投資顧問	山崎 雅也	野村證券
斉田 健一	みずほ証券	山田 幹也	みずほ証券
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	若林 恵太	水戸証券
佐渡 拓実	大和証券	和田木 哲哉	野村證券
醒井 周太	ニッセイ アセット マネジメント	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。